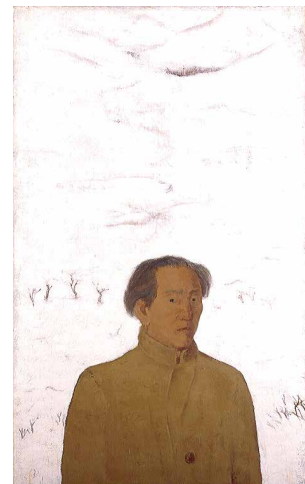


山、眠る ② 田村一男没後20年

田村一男(1904～97年)は、信州の山々に親しみ、日本の大地を愛した画家です。

20歳を過ぎて訪れた蓼科高原の雄大な景色に魅せられ、生涯を通じて日本の高原風景を主題としてきました。とくに田村は、毎年のように信州を訪れ、信州の風景を題材にした作品を数多く残しています。こうした高原風景には、田村が自身の肌で感じた自然の厳しさと大地のぬくもりがそこはかとなく漂います。

今年は、田村が没してから20年。そこで、今年の記念展示室は、「山眠る」と題して、田村がとくに好んで描いた日本の冬をご紹介します。「山眠る」は「冬」の季語。ときに田村が描いた山の絵は、田村自身の姿を投影したかのような静けさとゆるぎない堅牢さをたたえています。70年余りにわたる田村の画業をご堪能ください。



上段左から
《雪国》1980年／《ふゆはれ》1988年／《雪原の男》1972年
下段左から
《冬丘・御射山高原》1992年／《蓼科山冬景》1981年

